

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【第二東中学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)自主的・自発的な学習をするために学習を調整することができる資質・能力 (2)話したり書いたりするような、自分の考えを表現することができる資質・能力
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)教師主導ではなく、生徒主体でどのように学習を進めるか単元内で考えるタイミングをもつことができる授業の実施。【各単元の最中に適宜】 (2)一問一答形式の答えだけを考えるだけでなく、自分の考えをまとめたりお互いに共有したりする授業の実施【各単元の中で1回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修会
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語の調査結果の正答数の割合で見た際に、12～15問正解の割合が全国平均と同程度である一方で、0～6問正解の割合が全国平均と埼玉県平均のどちらよりも高い割合であり、二極化が見られる。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	・国語、数学、英語を問わず、自律的に文章を読み解いて答える力をもつ生徒が一定数いる一方で、全体の約4分の1の生徒は解答以前に基礎的知識の定着に課題がある。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策(1)・(2)ともに実施できている。(2)については、生徒の実態を踏まえ、基礎的知識の習得とともに自分の考えをまとめたり共有したりできているかを確かめながら指導していく。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所